

令和8年
2026年

3月16日
月曜日

第11910号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6か月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】 株式会社食肉通信社
https://www.shokuniku.co.jp/

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



食肉産業展で開催50回記念特別セミナー開催……P2～3

- ▶ 食肉産業展で開催50回記念特別セミナー実施、オーギーミートの魅力を紹介 …… P2～3
- ▶ 25／26年度の穀物生産量は消費量を上回る見込み—USDA報告 …… P3
- ▶ コロンビアと米国で鳥フル、家禽肉等輸入一時停止 …… P3
- ▶ イベリコ豚インタープロフェッショナル協会（ASICI）FOODEX JAPAN 2026 に出展 …… P4
- ▶ 「鳥フルワクチンに関する基本的方針」を公表、日本養鶏協会 …… P5
- ▶ 丸大食品がサッカー日本代表オフィシャルライセンス商品を期間限定発売 …… P5
- ▶ 米食肉カンファレンス開催、高品質な日本産和牛を求める声も …… P6
- ▶ バーガーキング「アルファキング・イエティザ・ワンパウンダー」新発売 …… P6
- ▶ 【東京食肉卸売市場】牛は堅調、豚は強含みか …… P7
- ▶ 【大阪市食肉卸売市場】牛3月中は高値、豚も高値相場維持するか …… P7
- ▶ FoodFes(株)「からあげ祭 in イオンモール堺北花」開催 …… P7
- ▶ [資料] 高病原性鳥インフルエンザの発生と防疫措置進捗状況 …… P8
- ▶ [資料] 豚熱の発生状況 …… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]13日 …… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]13日 …… P11

注目のヘッドライン

食肉産業展で開催 50 回記念特別セミナー実施、オーギーミートの魅力を紹介

食肉産業展の開催50回記念特別企画として「安全性・多様性・エシカルが交差する“今”のオーギーミート～グラス&グレイン&ラムを食べ比べ～」セミナーが11日、開催された。

…詳細はP2～3

25 / 26 年度の穀物生産量は消費量を上回る見込み—USDA報告

…詳細はP3



多岐にわたる情報を網羅 食肉通信社

銘柄牛肉 ガイドブック

25 380 ブランド 以上 B5判/258頁 定価2,500円



食肉産業展で開催 50 回記念特別セミナー実施 オージーミートの魅力を紹介

食肉産業展の開催50回記念特別企画として「安全性・多様性・エシカルが交差する“今”のオージーミート〜グラス&グレイン&ラムを食べ比べ〜」セミナーが11日、開催された。講師にMLA(ミート・アンド・ライブストック・オーストラリア)の三橋一法フードサービス・シニアマネジャー(写真)を招いた。また、3種類のオージーミート(グラスフェッドビーフ、グレインフェッドビーフ、ラム)の食べ比べが実施され、いずれも品質に高い評価を得た。講演要旨は次の通り。

【MLAのミッション】 ミッションとして①日本市場でのオージーミートの輸出量・輸出額の増加②グラスフェッドに限らないグレインフェッドも含めた提案や、世界的にプレミアムな食肉とされているラム肉の価値向上③オージーミートのロゴの認知拡大―を掲げている。

オージーミートのポテンシャルは非常に高い。豪州は輸出大国であり、基幹産業が畜産。現在は100カ国以上に輸出しており、欧米・アジアなどさまざまな国に対応できる。最近では英国やインド向けの輸出がスタートした。

【オージーミートの四つの魅力】 ①疫病がない。各地で発生したBSEが豪州は発生していない。厳格に取り締まる安全・安心な流通②トレーサビリティシステムにより、生産者情報を追える③優れた衛生管理で菌数が少なく、賞味期限が長い④アニマルウェルフェアに対応している。ストレスのない環境で飼養しており、世界トップレベルでエシカル(倫理的)な管理を行っている。エシカル・アニマルウェルフェア・サステナブルに敏感な人にマッチしているので、オージーミートを取り扱っていただいている皆さまには自信を持って販売していただきたい。

【オージービーフ】 味に対して、多くの人は昔のイメージでとどまっている現状があり、イメージがアップデートされていないとも感じる。グラスフェッドビーフだけでなく、栄養価の高いイネ科、マメ科といった牧草を与えたパステーフエッドビーフや、穀物を与えたグレインフェッドは100〜300日以上給餌など、霜降りが入るように穀物肥育期間を設定し、



顧客のニーズに合わせることができる。また、豪州産WAGYUもある。

【オージーラム】 ラムはジンギスカンだけでなく、さまざまな使われ方をするようになった。しかし、わが国における羊肉の1年間の1人当たりの消費量はわずか300g。まだほとんどの人が日常的に食べていないことが分かる。しかし、だからこそこれからは伸びしろしかないと考えている。

豪州は歴史的に羊毛産業で栄えた国。ポリエステル台頭で産業が下降に向かうと、畜産にシフトしていった。昔は羊毛に適したメリノ種だったが、今は主に品種交配したセカンドクロス(二元交配)のラムを「プライムラム」として流通しており、昔とは仕上がりが違う。

また、宗教を問わない唯一の赤身肉なので、海外からのさまざまな人に対応できる。そして優れた栄養価値がある。タンパク質、鉄分、亜鉛、ビタミンB群という四つの栄養素が豊富。鉄分が特に豊富で、不足しがちな女性に最適だ。さらに亜鉛は免疫力向上に適しており、ビタミンは肌に良い。そうした意味では、女性に支持される飲食店やナチュラル系の店舗に特に適している。

羊は壁画にも書かれている古代から人類と共に成り立ってきたサステナブルなお肉といえるため、そういった切り口ができるのもラム肉の魅力だ。

現在、MLAでは「ラムバサダー」というアンバサダー制度を構築しており、さまざまな食のプロフェッショナル20人がラムバサダーとなり、セミナー、展示会、料理教室、レシピ開発などに取り組んでいる。

来年は「未年」。私たちもやる気まんまん。小売や

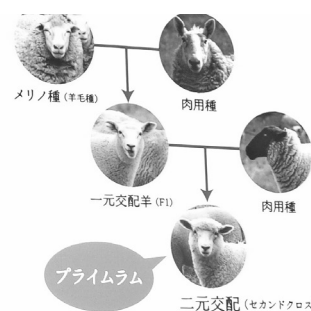
外食の皆さんには今からラムの魅力を伝えることで、来年に備えていただきたい。

【エシカルについて】 欧米ではエシカルが話題になっており、日本も近い将来にそうなる可能性がある。それに備えて今から取り組んでいくべきだといえる。「人にやさしく、環境にやさしく、家畜にもやさしい」という考え方を取り入れているのがオーギービーフ・ラム。この先、間違いなく注目されると考えている。訪日外国人も増えているため、特に重要といえるだろう。エシカルフードを店舗に加えるのは、顧客への新たな提案になる。

【父の日について】 例えばクリスマスにはチキンを食べるが、「父の日」に何を食べるかといわれるとあまりない。父の日こそ家族で牛肉を盛り上げてもらいたいと考えており、父の日に牛肉を食べようというキャンペーンを昨年から行っている。今年は小売と外食においてキャンペーンを展開する。オーギービーフの

みならず、日本において父の日に牛肉を食べるという文化を作りたい。

【最後に】 皆さまに選ばれる選択肢の一つとしてオーギー・ビーフ、ラムを加えてほしい。MLAとしても皆さまと一緒に日本の牛肉、羊肉のシーンをこれからも盛り上げていきたい。



25 / 26 年度の穀物生産量は消費量を上回る見込み—USDA報告

農水省がまとめた米国農務省穀物需給報告(現地時間10日)によると、2025/26年度の世界の穀物全体の需給は、生産量が29億7653万t(前年度比4・3%増)、消費量が29億5964万t(3・0%増)、期末在庫量が7億9227万t(2・2%増)を見込んでいる。

品目別にみると、小麦の生産量は8億4212万t(5・2%増)、消費量は8億2480万t(1・8%増)、期末在庫量は2億7696万t(6・7%増)を見込んでいる。価格は2月に入り、世界的に潤沢な供給やドル高などをを受けて5ドル/bu台後半まで値を下げたものの、米国の乾燥のよる作柄懸念等を受けて値を上げ、2月末現在5ドル/bu台後半で推移。

とうもろこしの生産量は12億9744t(5・4%増)、

消費量は13億51万t(4・0%増)、期末在庫量は2億9275万t(1・3%減)を見込んでいる。価格は2月に入り、大豆に連れ高となったことなどをを受けて4ドル/bu台半ばまで値を上げたものの、世界的な天候改善等を受けて4ドル/bu台前半まで値を下げた。その後、米国産とうもろこしの堅調な輸出などをを受けて値を上げ、2月末現在、4ドル/bu台半ばで推移。

大豆の生産量は、4億2718万t(前年並み)、消費量は4億2416万t(2・6%増)、期末在庫量は1億2531万t(1・2%増)を見込んでいる。価格は2月に入り、中国による米国産大豆追加購入への期待などをを受けて値を上げ、2月末現在、11ドル/bu台半ばで推移。

コロンビアと米国で鳥フル、家禽肉等輸入一時停止

農水省動物検疫所は12日、コロンビアと米国の家禽飼養施設で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されていることから、コロンビア全土から輸出さ

れる家禽肉等の輸入を10日から、テネシー州ホーキンス郡から輸出される生きた家禽、家禽肉等の輸入を12日から一時停止したと発表した。

イベリコ豚インタープロフェッショナル協会 (ASICI) FOODEX JAPAN 2026 に出展

イベリコ豚インタープロフェッショナル協会 (ASICI) は、10～13日に開催された「FOODEX JAPAN 2026」にブース出展。初日10日、メディア向けモーニングセッション「イベリコ豚を味わう朝食会」を「イベリコ豚の安全性とその価値について」をテーマに開催した。

同協会は、スペインのイベリコ豚産業界全体を代表する農食品団体として、品質、トレーサビリティ、食品安全、そして伝統と革新を融合させた独自の生産モデルの価値向上に取り組んでいる。今回の出展は、商業的なプロモーションにとどまらず、制度的・業界的なミッションとして、日本市場に向けて正確かつ文脈を踏まえた情報提供を行うことを目的としている。

同ブースは、専門家・関係機関・メディアとの対話の場として設計し、イベリコ豚という製品そのものだけでなく、その背景にある生産モデル、管理・トレーサビリティ体制、動物衛生対策、透明性、そして高い食品安全基準について、包括的に紹介するとし、特に、動物衛生および食品安全が国際的に重要視される現在において、スペインの生産モデルの厳格さと予防的アプローチ、確立された管理体制により、国際的にも高い評価を受けていること広く周知することを目的としている。

冒頭、ASICIのラウル・ガルシア会長(写真)は「本日はメディアおよび専門家・関係者の皆さまに向け、イベリコ豚の生産環境、衛生管理、そして安心して食していただくための高い食品安全基準をお伝えすることができるイベントを開催できることを大変うれしく思う。現状のイベリコ豚生産の背景を知っていただき、日本の消費者の皆さまに広く周知されることを願っている」とあいさつ。

続いて、スペイン大使館のゴンサロ・ラモス経済商務参事官があいさつし、「残念ながら今現在、2025年11月末に発生したアフリカ豚熱 (ASF) の影響によりスペイン産豚肉の日本への輸出はストップしている。しかしながら、両国共にできるだけ早く輸出入が再開できるようすべての手段を講じ、尽力していると



ころである。本イベントでスペインのイベリコ豚生産者が、ASF予防のために、適切な生産環境とゾーニング措置の下、生産管理していることを知っていただき、1日でも早い輸出入の再開につながることを願っている」と述べた。

その後、スペイン食肉産業界全国協会 (ANICE) のジュゼッペ・アロイシオ事務局長がASFの現状について説明。同国では発生直後から予防措置として、EUの規制ならびに国家緊急時防疫計画を即時発動したことをはじめ、発生地点から20km圏内を制限区域としてゾーニングし、高リスク区域を6km圏内および監視強化区域を最大20km圏内と設定したほか、監視強化施策として、猪の個体数管理や全国規模で国家監視プログラムを発動。これまで確認された事例は全て野生猪に限られ、家畜豚の全頭検査の結果、全頭において陰性であったことなどが報告された。

また、ホセ・イグナシオ・モリニゴIBERCOM事務局長兼スペイン農産食品協同組合代表が、ASFに対するバイオセキュリティについて説明した。農場における管理として、農場への入退場の厳格なアクセス管理や、車両、履物、衣類、工具やツール、機械に対する消毒の徹底。それに加えて、商品およびサプライヤーの自己衛生管理の徹底と、衛生管理記録書類の常時最新化の実施の他、野生動物の外部侵入を防ぐ対策や、家畜豚の個体識別管理および異常検出から疾病の疑いが持たれた場合の通報までのプロセスなどが説明された。

「鳥フルワクチンに関する基本的方針」を公表、日本養鶏協会

日本養鶏協会は10日、「高病原性鳥インフルエンザワクチンに関する基本的方針」を公表した。

高病原性鳥インフルエンザにより、大規模な経済的損失が発生しているが、HPAIは、毎年度発生する状況であり、今までの防疫体制では防御できない状況となっている。このような中、諸外国ではHPAIに対するワクチンが開発され、導入が検討されており、今後主要国においてワクチンの導入が普及していく可能性がある。

わが国では、輸入に依存することなく、国内の鶏卵産業により、優れた国産鶏卵を安定的に国民に提供してきたが、今後もHPAIが継続的に発生する場合、安定的、持続的な国産鶏卵を提供することも困難となり、さらには、わが国以外の諸外国が、先進的に連

携してワクチンの導入に踏み切った場合には、わが国の鶏卵産業の競争力は弱まり、その結果、国産鶏卵の国内外の市場を失う恐れがある。

養鶏産業の健全な発展と国産鶏卵の持続的かつ安定的な供給を確保するためには、諸外国のワクチンの導入の検討状況を踏まえつつ、かつ、諸外国に遅れることなく、新たな防疫措置の一手法としてのワクチンの導入を進めておく必要がある。

基本的方針は①ワクチン導入の必要性②ワクチン導入時に想定される生産者の役割③ワクチン導入時に想定される生産者の役割④接種に用いられるワクチン⑤ワクチン接種後のサーベイランス⑥今後の課題一の六つで構成されている。

丸大食品がサッカー日本代表オフィシャルライセンス商品を期間限定発売

丸大食品は、ライセンス商品を通して「スポーツを愛するみなさまの食をサポートしたい」との思いから、SAMURAI BLUE (サッカー日本代表) のオフィシャルライセンス商品を期間限定で9品発売する。

第1弾として「フィッシュソーセージ 5本束」を3月上旬から、「プロテインチキンスティック マイルドソルト」

「プロテインチキンスティック ブラックペッパー」を3月中旬、「ファミリーカルパス」を4月上旬から、全国のスーパーなどで順次発売する。

商品パッケージデザインはSAMURAI BLUEを象徴するブルーを基調に躍動感を前面に打ち出したデザインとなっている。さらに一部商品ではサッカー日本代表選手の写真を大きく配置し、エネルギッシュでスポーティーな印象に仕上げ、サポーター心をくす



ぐるデザインとなっている。いずれの商品も持ち運びやすく、スポーツ観戦や運動後の軽食・つまみとしてお勧め。さらに、忙しい日の小腹満たしや、アウトドア、旅行時の携行食として日常のさまざまな食シーンで活躍する。常温保存できるため買い置きしやすく、食べた分を買い足す「ローリングストック」で、無理なくストックを継続できる。

米食肉カンファレンス開催、高品質な日本産和牛を求める声も

ジェットロによると、米国メリーランド州オクソンヒルで3月2～4日、「アニュアル・ミート・カンファレンス(The Annual Meat Conference)」が開催された。食肉協会と食品産業協会(FMI)が共催し、同業界を取り巻く各種テーマで10以上のセミナーのほか、ブース展示、ネットワーキングイベントが行われた。

セミナーの一つ、「The Power of Meat 2026」では、米国における食肉消費動向について説明があった。2025年の食肉の売上高は金額ベースで前年比6・8%増と生鮮食品の中でも高い伸びを示したこと、この伸びは肉を購入する世帯数の増加、買い物頻度の向上、1回当たりの購入額増加によってけん引されたことなどが紹介された。売上高の伸びのうち、70%を牛肉が占める。また、消費者が価値と効率性を求める中、食肉関連支出は伝統的なスーパーマーケットから、量販店、会員制倉庫型店舗、オンライン販売チャンネルへ移行を続けているという。

150以上の食肉関係企業・団体によるブース展示・商談では、JBSフーズ(本社＝コロラド州)、タイソンフーズ(本社＝アーカンソー州)、ナショナルビー

フ(本社＝ミズーリ州)といった米国食肉大手をはじめとする食肉関係事業者が出展した。

ジェットロの農林水産物・食品輸出プラットフォームは、日系輸入事業者2社と連携して和牛ブースを設けた。2025年に続き(25年4月4日記事参照)、来場者の食肉小売事業者、卸業者らに対して、さまざまな部位の展示、試食提供などによる和牛のPR、商談を行った。

来場した食肉卸業者からは、「米国産Wagyuを取り扱っているが、さらに高品質な日本産和牛の新規取り扱いに向け、その違いを知りたい」「新たな部位〔カタバラ(ブリスケット)をはじめとした非ロイン系の部位〕に関心があり、その調理法やメニューを知りたい」といった声がきかれた。

会場唯一の日本産和牛のブースには、特に多くの来場者が訪れ、日系輸入事業者と多数の商談が行われた。25年の日本の米国向け牛肉輸出額は前年比14・5%増の154億円と過去最高を更新しており、バイヤーの反応からも日本産和牛への関心の高さがうかがわれた。

バーガーキング「アルファキング・イエティ ザ・ワンポウンダー」新発売

(株)ビーケージャパンホールディングス(東京都千代田区、野村一裕社長)は13日から、直火焼きの100%ビーフパティ4枚、まろやかな味わいのゴータチーズ4枚とホワイトチーズソースに、スモーキーなベーコン4枚とケチャップを加えた「アルファキング・イエティ ザ・ワンポウンダー」(税込み2390円)を期間数量限定で発売した。

同店は、直火焼きの100%ビーフパティの香ばしくジューシーなおいしさを堪能してもらうため、ビーフ4枚を使用した“ワンポウンダーシリーズ”を展開している。2026年の同シリーズ第1弾として、好評を博している超大型チーズバーガー「イエティ」が変化した「アルファキング・イエティ ザ・ワンポウンダー」が期間数量限定で登場。同商品は、同店自慢のビーフ

パティ4枚に、スモーキーなベーコン4枚と、味のアクセントのピクルス、まろやかな味わいのゴータチーズスライスをぜいたくに4枚重ね、カマンベールのコクとにんにくのうまみと濃厚なホワイトチーズソースとケチャップで仕上げた、食べ応え抜群な超大型チーズバーガー。

チーズバーガー好き、大型バーガー好きも大満足な一品となっている。



【東京食肉卸売市場】牛は堅調、豚は強含みか

〔牛〕前週は和牛、交雑牛共に強もちあい。和牛去勢の5等級は週頭に100円ほど下げたが、その後は回復基調に。3～4等級は強気の展開が続いており、3等級は週中に2400円を超え、4等級との差が縮まっている。

暖かい日が続くかと思えば、一時東京でも雪が降るなど、寒暖の差が大きく、小売では鍋物向け、焼き材、どちらを仕込むか悩む声がかかっている。和牛は相場高で、買い付けができていないこともあり、どの部位も引き合いは強い。交雑牛は切り落とし材の引き合いが強く、まだバラ系は荷動きが悪い。

今月は決算月。在庫を警戒しそろそろ相場が緩む頃だが、月末に向け出荷頭数は絞られてくるとみられている。政府の需要拡大対策の下支えもあり、大きな下げは、まず考えられない。和牛去勢A5は2600～2700円、A4は2400～2500円のもちあい。交雑牛は高値に張り付き、去勢B4が1600～1700円、B3が

1550～1650円か。

〔豚〕前週は出荷頭数が伸び悩み、全国と畜頭数が6万頭台前半の日が続いたこともあり、相場は上昇基調で推移。上物価格は600円台半ばから後半の展開が続いている。

3月中旬に差し掛かり、気温がさらに上昇していく中、春の需要期に向けて徐々に引き合いは強まってきた。下旬には春休みに入り、花見などの行楽需要も強まるが見込まれるため、ロイン系などの荷動き良化に期待がかかる一方、学校給食の中断などもある。スソ物の荷動きが鈍化することも予想される。

不安定な国際情勢による原油価格の上昇など、物流や為替の動向を含めて今後の不透明感は強く、国産豚肉へ対する需要は堅調だ。

今週も強含みの展開か。

【大阪市食肉卸売市場】牛3月中は高値、豚も高値相場維持するか

〔牛〕ハレの日需要が乏しく、末端の販売状況は改善していない。そのためモノの動きは鈍い。しかし、全国の和牛流通量は多くなく、この先の5月の大型連休を見越すと供給量が十分でないことから、大阪市場の和牛相場も引き合いの強い状態が続いている。

和牛A5等級は平均2500円を上回っており、A4等級も2300円を上回っている。今週もこうした高値が続くと見込まれる。交雑牛も和牛の高値に引きずら

れ、B3等級が1700円を上回っている。

この高値は3月いっぱい続く見通し。4月以降の相場についても状況を注視していく必要があるだろう。

〔豚〕豚枝肉相場も上伸しており、非常に引き合いが強い。ニーズはこの先も高いと見込まれており、高値相場は今週も続くだろう。

FoodFes (株)「からあげ祭 in イオンモール堺北花田」開催

FoodFes(株)(大阪市、稲垣一馬社長)は3月27～29日の3日間、「からあげ祭 in イオンモール堺北花田」をイオンモール堺北花田(大阪府堺市)で開催する。

同イベントは全国各地で愛されるから揚げの名店が集まるグルメイベント。「花よりからあげ」を合言葉に、“今いちばん好きな一杯＝推しのからあげ”を

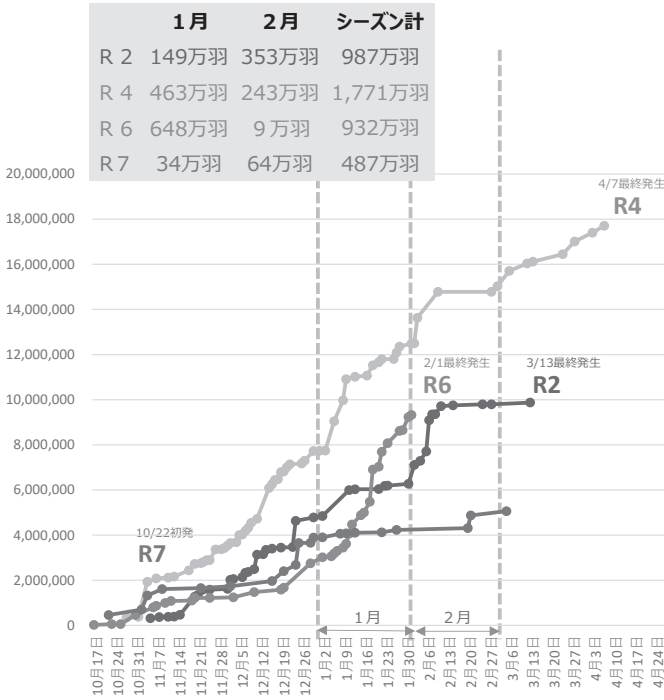
みつけることをテーマに開催する。会場には、定番のしょうゆ・塩はもちろん、スパイス系や変わり種、地域色豊かなから揚げまで勢ぞろい。1品300円から気軽に楽しめる春の行楽シーズンにぴったりの屋外イベントとなっている。公式Instagram=<https://www.instagram.com/karaage.fes/>、公式HP=<https://foodfes.jp/wp/202603karaage/>

[資料] 高病原性鳥インフルエンザの発生と防疫措置進捗状況

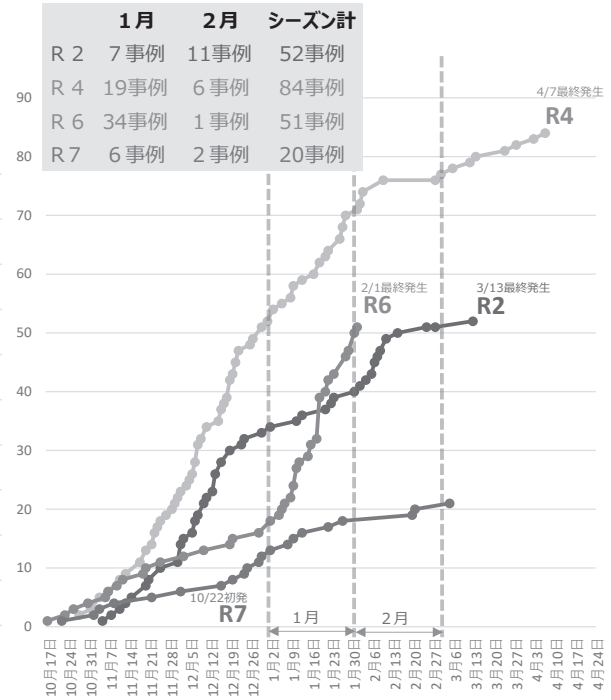
過去シーズンとの発生状況の比較

○ 令和7年シーズンは、大規模農場や既発農場での発生が多い傾向。

殺処分羽数の推移



発生件数の推移



発生場所	発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3	農林水産省 対策本部	防疫措置 (殺処分、消毒等)			
				防疫措置 (殺処分、消毒等)		搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
				開始	完了		
⑯ 三重1 養鶏場 (三重県津市)	令和8年 1月13日	約2.5万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	1月13日	1月15日 9時00分 5時30分	1月26日 15時00分	2月6日 0時00分	
⑰ 岐阜1 養鶏場 (岐阜県関市)	令和8年 1月22日	約2万羽 (肉用鶏・平飼い)	1月22日	1月24日 8時30分 8時30分	2月5日 0時00分	2月15日 0時00分	
⑱ 千葉1 家きん農場 (千葉県旭市)	令和8年 1月27日	約10.8万羽 (うずら・ケージ飼い)	1月27日	1月29日 8時00分 16時00分	2月10日 0時00分	-	
⑲ 千葉2 養鶏農場 (千葉県旭市)	令和8年 2月20日	約6万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	2月20日	2月20日 8時00分 2月24日 15時00分	3月7日 12時00分	-	
⑲' 千葉2 養鶏農場 (千葉県旭市)		約2万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)			3月7日 12時00分	-	
⑳ 岩手1 養鶏農場 (岩手県金ヶ崎町)	令和8年 2月21日	約56万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	2月21日	2月21日 9時00分 3月3日 18時00分	-	-	
㉑ 北海道4 養鶏場 (北海道安平町)	令和8年 3月5日	約18.8万羽 (肉用鶏・平飼い)	3月5日	3月5日 8時00分 3月12日 13時20分	-	-	

※1 疑似患畜と確認した日。 ※2 飼養方法は主に防疫学調査結果から引用。 ※3 飼養羽数は疑似患畜確認時の羽数を記載。

資料：農水省

[資料] 豚熱の発生状況

令和8年3月12日 12時00分現在

豚熱の防疫措置対応(概要)



102事例(防疫措置対象: 180農場、7関連施設、約439,804頭 (既にと畜されていた頭数を除く))				農林水産省対 策本部	防疫対応状況			
発生場所	発生日	飼養頭数(種別)	措置完了日(00時)		17日目	28日目		
			開始		完了	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除	
95	豚一貫農場 (群馬県前橋市)	2025年 1月23日	約4,800頭(精査中)	1月23日 23時00分	2月3日 12時00分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
96	豚一貫農場 (群馬県前橋市)	2025年 2月21日	約8,700頭(精査中)	2月21日 22時00分	3月10日 12時00分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
97	豚一貫農場 (千葉県旭市)	2025年 3月31日	約5,480頭(精査中)	3月31日 20時00分	4月14日 11時25分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
	豚肥育農場(L) (千葉県匝瑳市)	関連農場	約150頭(精査中)	3月31日 20時00分	4月8日 15時00分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
	豚肥育農場(M) (千葉県香取市)	関連農場	約50頭(精査中)	3月31日 20時00分	4月5日 10時05分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
	豚肥育農場(N) (茨城県茨城町)	関連農場	約100頭(精査中)	3月31日 20時00分	4月1日 15時00分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
97	豚肥育農場(O) (茨城県城里町)	関連農場	約70頭(精査中)	3月31日 20時00分	4月3日 12時00分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
	豚一貫農場 (群馬県前橋市)	2025年 4月4日	約6,800頭(精査中)	4月4日 22時00分	4月21日 12時00分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
98	豚一貫農場 (群馬県前橋市)	2025年 5月9日	約460頭(精査中)	5月9日 19時00分	5月16日 12時00分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
99	豚一貫農場 (群馬県前橋市)	2025年 5月9日	約460頭(精査中)	5月9日 19時00分	5月16日 12時00分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
100	豚一貫農場 (群馬県桐生市)	2025年 10月2日	約5,900頭(精査中)	10月2日 21時00分	10月15日 12時00分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
101	豚一貫農場 (群馬県前橋市)	2026年 2月26日	約2,000頭(精査中)	2月26日 20時00分	3月10日 11時00分	ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
102	豚繁殖農場 (静岡県富士宮市)	2026年 3月11日	約1,550頭(精査中)	3月11日 20時00分		ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		
	豚肥育農場 (静岡県富士宮市)	2026年 3月11日	約650頭(精査中)	3月11日 20時00分		ワクチン接種地域であるため、制限区域は 設定しない		

資料: 農水省

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 3月13日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,056	2,511	-	-	-
		安値	2,376	2,359	-	-	-
		平均	2,610	2,421	2,321	-	-
	73頭	頭数	58	14	1	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	2,017	-	-
	1頭	頭数	-	-	1	-	-
	去 A	高値	4,104	2,548	2,420	-	-
		安値	2,378	2,268	2,349	-	-
		平均	2,655	2,440	2,385	-	-
	210頭	頭数	169	31	10	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B 4頭	平均	-	-	1,320	-	
	去 C 7頭	平均	-	-	1,295	-	
交雑牛	雌 B	平均	1,624	-	1,643	1,569	-
		19頭	頭数	1	-	8	10
	雌 C	平均	-	-	-	-	-
		-頭	頭数	-	-	-	-
	去 B	平均	-	1,737	1,662	1,618	-
		7頭	頭数	-	1	5	1
去 C	平均	1,701	-	-	-	-	
1頭	頭数	1	-	-	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚	その他
と畜	349	782	-	(競り) (相対)	
売買	403	1,018	164.5	-	21
				21	69

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,471	1,806	1,702	1,484	-
	B	-	1,773	1,660	1,423	1,454
和 去	A	2,652	-	-	2,039	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,117	1,066
	C	-	-	-	1,029	1,019
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	1,057
交 雌	B	-	1,641	1,580	1,567	1,056
	C	-	-	1,491	-	-
交 去	B	-	1,724	1,589	1,558	-
	C	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	799	774	711	767	745
	安値	676	649	626	432	356
	平均	709	683	658	634	487
	頭数	(12)	(363)	(392)	(166)	(85)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入相対	高値	-	-	454	432	489
	安値	-	-	421	432	270
	平均	-	-	443	432	461
	頭数	(-)	(-)	(3)	(2)	(16)

[大阪食肉卸売市場] 3月13日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [] は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,583	2,323	2,054	-	-
(頭数)	(10)	(5)	(1)	(1)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(1)	(-)	(1)	(1)	(-)
和 去 A	2,761	2,332	-	-	-
(頭数)	(38)	(3)	(-)	(-)	(-)
B	2,384	2,052	-	-	-
(頭数)	(1)	(1)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,799	1,708	1,570	-
C	-	-	1,699	1,610	-
交雑去 B	1,859	1,757	1,708	1,676	-
C	-	1,711	1,693	-	-
豚	-	-	-	-	-

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	3月13日	3月12日	(3月累計)
豚	63,500	66,000	645,900
成牛計	4,140	3,900	43,050
和牛雌	1,040	890	9,920
和牛去勢	800	1,030	11,530
乳牛雌	690	810	6,770
乳牛去勢	320	330	4,180
交雑雌	660	460	5,350
交雑去	630	380	5,290

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 3月13日

東京	1,569 円	(前日 1,614 円)
大阪	1,704 円	(前日 1,738 円)

[豚・全農建値] 3月13日

上	中	取引頭数	市況
円	円	頭	

と畜	牛 61 頭	豚 136 頭	牛概況	もちあい
売買	牛 114 頭	豚 43 頭	豚概況	まちまち

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 3月13日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	637 (637)	- (-)	5,867	-	もちあい
仙台 [中]	630 (602)	503 (448)	497	68	反発
栃木 [地]	676 (-)	603 (-)	1,322	31	もちあい
茨城 [地]	686 (695)	663 (666)	1,179	749	下押し
群馬 [地]	713 (692)	626 (599)	2,348	324	続伸
さいたま [中]	720 (710)	708 (700)	122	122	反発
東京 [中]	683 (679)	658 (650)	782	1,018	強もちあい
横浜 [中]	699 (686)	668 (657)	670	664	続伸
山梨 [地]	- (685)	- (659)	102	15	休市
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	624 (609)	591 (598)	958	299	上伸
京都 [中]	587 (619)	585 (572)	33	72	もちあい
大阪 [中]	- (722)	- (703)	136	-	上場なし
神戸 [中]	610 (604)	602 (583)	-	57	上伸
岡山 [地]	634 (623)	622 (620)	310	255	強気配
広島 [中]	664 (-)	631 (-)	407	51	急騰
福岡 [中]	652 (629)	618 (595)	558	156	続伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 3月6日～3月12日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,765,690 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,117	1,184	1,242	1,179	75,593
うで	740	756	779	759	136,614
ロース	1,026	1,123	1,231	1,108	161,595
ばら	1,179	1,244	1,287	1,242	176,382
もも	741	769	813	781	200,302
ヒレ	1,015	1,069	1,216	1,096	20,391
セット	961	1,012	1,084	1,022	994,813

◇近畿圏 総重量 803,946 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,188	1,294	1,341	1,288	66,751
うで	672	743	796	724	134,861
ロース	1,058	1,188	1,227	1,167	104,933
ばら	1,231	1,275	1,351	1,286	141,933
もも	707	720	810	726	188,254
ヒレ	1,026	1,166	1,261	1,155	13,170
セット	918	999	1,115	1,012	154,044

[食鳥正肉日経相場] 3月12日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	764	818	1,018	224
ムネ	457	508	657	162

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	745	816	1,050	4
ムネ	455	516	610	2

[農水省統計情報部食鳥市況]
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,094	720	550	600	650
安値	770	460	290	360	350
平均	844	526	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日区間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」、3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510
TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928
TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡 晃 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します